大障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合
大阪市天王寺区東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

障害児教育の魅力・歴史をみんなで学び、考えた2日間

困難な状況のもとで「無念」の声が時代の扉を開けてきた

第22回全国障害児学級・学校学習交流集会

第22回全国障害児学級&学校学習交流集会in京都が、1月7日（土）、8日（日）に京都教育大学を会場にして開催されました。1日目の全体会では、現地企画の鼎談や構成劇で障害児教育の魅力や歴史に触れ、2日目は、てんこもり講座、フィールドワーク、実践分科会が行われました。

今回は3年ぶりの会場参加とオンライン参加のハイブリット形式で行われ、2日間で全国からのべ900人が参加し、大障教からは41人が参加しました。

「こんな学校だったら通ってみたかった」

1日目の全体会は、京都の現地企画として構成劇「『ぼくらの学校』をきがして」が、支援学校で働く若い先生たちが悩みながらもどう学校づくりに向き合っていくのか、その姿を軸に進められました。

第1部では、鼎談として、写真家の吉田亮人さん、装丁家の矢萩多聞さんが京都府立与謝の海養護学校を取材したときのお話を同校の教員の石田さんと一緒に語られました。

与謝の海養護学校は、「障害の重い子どもたちには教育は必要ない」と就学を猶予免除されることが当り前だった時代に、「教育権保障」の思いのもと父母や地域で運動して作られた学校です。

雑誌「NUETRAL COLORS」第2号で特集が組まれて掲載された学校の写真とともに、全く知らなかった支援学校に足を踏み入れ、子どもと先生との日常をカメラに収める中で感じた思いを率直に語ってくださいました。何気ない学校の日常を切りとり、とてもあたたかい雰囲気を感じる写真ばかりでした。

先生たちが本当に楽しそうに子どもと関わっている姿、特に朝の子どもたちを出迎える場面が良かったこと、「こんな学校だったら通ってみたかった」と、取材に通うことが本当に楽しかったとうれしそうに話されているお二人の姿が印象的でした。改めて、「学校って何だろう」と、考えさせられました。

子どもの願いを大切にしたい

2部では、若い4人の教師が登場し、学校であった出来事をVTR形式にして紹介し、悩みや葛藤が語られました。

「子どもに寄り添って、子どもの主体性を大切にしたい」という思いが周りにはなかなか理解されない。他の教員からは「集団活動からはみ出させてはいけない」「甘いのでは」などの言葉を投げられ悩んでいるなど、素直な気持ちが語られました。

しかし、劇のエンディングでは、こうした悩み・葛藤をこえ、若い教師たちは「子どもに寄り添った教育がしたい、子どものねがいを大切にしたい」という力強いメッセージを発信し、大きな感動をよび、会場から大きな拍手が起こりました。

会場もオンライン参加者も、みんなで手話で合唱しました。

教育は「希望でみちびく科学」

第3部では、立命館大学の三木裕和さんがまとめとして講演されました。新指導要領のもと子どもの教育評価のあり方が現場で大きなテーマとなり、評価の「客観性」や「第三者においても観察可能な…」などが言われています。こうしたもとで「評価のあり方を考えよう」と三木さんは問いかけます。

三木さんは教育評価が子どもの真実に接近していくため、①発達的理解との整合性、②集団的検討、③長期スパンの解釈、の3つが大切だと強調しました。そのうえで「子どもに働きかけている教師だからこそ認識できる何かがある。それを軽視することは教育実践の価値をおおもとから崩し去るもの」と現場で強まる「客観性」の問題を指摘しました。

さらに三木さんは、養護学校義務制以前の学校に行けなかった子どもの声を紹介され、こうした「無念」の声が時代の扉を開けてきたことを、歴史を振り返って話されました。構成劇の若い教師たちの姿にも触れながら、今の困難な状況のもとでも、「誰だって最初から上手に発言できるわけではない、未熟さを恥じずに発信しよう。その内容にはきっと真実があるはず」と結ばれました。

大障教ホームページアドレス　http://fc06631220171211.web2.blks.jp/　Eメールアドレス：fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

2023年最初の大障教ニュース。みなさん、今年もよろしくお願いします。

1月7・8日、恒例の「全国障害児学級&学校学習交流集会」が京都で開催された。コロナ禍で3年ぶりの現地&オンライン開催で、久々にリアルで出会う全国の仲間との再会に、会場のあちこちで皆のマスクから笑顔がこぼれ出ていた。新年の始まりに、全国の仲間と教育実践を通して、子ども・学校・障害児教育等について自分の言葉で語り合い、学び合える充実した本集会が私は大好きだ。

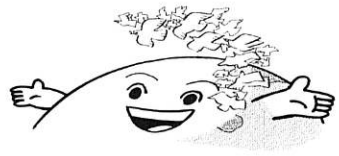
しかし、今回の集会で学んだ青年の実践において、子どもと過ごす日々の葛藤や悩みが等身大で語られると同時に、本来教育への希望を語る青年の口から子どもの心に寄り添った教育実践のためには、深刻な教員・教室不足の実態が大きな足枷になっていることが共通して語られる現場実態に胸が痛んだ。

障害児学校の劣悪な教育条件が全国的に蔓延する中、文科省が昨年3月に公表した教室不足調査で大阪が全国ワースト1となる528室の不足が明らかとなった。12月23日、「大阪の障害児教育をよくする会」は、劣悪な実態を広く知ってもらうために、冊子『障害のある子どもたちに当たり前の学習環境を！府立支援学校の実態』を発行。冊子には、人権侵害ともいえる大阪の劣悪な学習環境を学校ごとに写真入りで掲載、教員や保護者の切実な声等を紹介している。冊子は、大障教の各分会に届いているので、ぜひご一読を。

障害のある子どもたち、そこで働く我々教職員、皆に笑顔が溢れるよう、各分会でとりくんでいる支援学校の増設を求める請願署名に更なるご協力をお願いします。

軍事費2倍化・敵基地攻撃能力 大軍拡許さない

市民の共同で憲法を守ろう



秋の憲法大学習会

11月27日、大阪憲法会議・共同センターは「秋の憲法大学習会」を開催しました。

開会あいさつで大阪憲法会議の丹羽徹幹事長は、「国家安全保障戦略」など安保3文書改定に関する政府の「国力としての防衛力を総合的に考える有識者会議」が提出した報告書が、「反撃能力（敵基地攻撃能力）」保有に言及した問題点に触れ、大軍拡のために庶民増税が狙われていると批判し、「草の根で改憲ノーの運動をすすめていこう」と呼びかけました。

その後、九条の会事務局長の小森陽一さんが「9条改憲NO！許すな改憲発議！草の根から市民の共同で憲法を守りいかずとりくみを！」と題して講演しました。

小森さんは、岸田政権が急ピッチですすめる「反撃能力」保有の議論を巡り、米国製長距離巡航ミサイル「トマホーク」の購入を米政府に打診していたと批判しました。「トマホーク」は射程1600キロの対地攻撃用ミサイルで、イラク戦争でも使用されたとし、「トマホークは戦争と侵略の歴史の象徴であり、日本が出撃基地となって戦争に加担するような大軍拡路線を許してはならない」と語りました。また、2015年9月の安保関連法制強行は、日本政治史に大きなゆがみをもたらしたと述べました。市民と野党の共闘や参院選1人区における選挙協力がすすむ一方、安倍政権は統一教会との結びつきを強めていったと指摘しました。統一教会の政治部門である勝共連合が自衛隊の9条への明記を提起したのと同時期の2017年5月に、安倍氏が9条自衛隊明記を発言したと語りました。「九条の会」結成以降の18年の歩みを振り返り、「草の根からの市民と野党との連携した運動を広げ、憲法改悪を止めるために、力を合わせていこう」と呼びかけました。

人間にとっての豊かさとはなにかを考え直す時代に

大阪革新懇「講演と文化のつどい」

12月4日、進歩と革新をめざす大阪の会（大阪革新懇）が「講演と文化のつどい」を開催し、京都大学元総長で総合地球環境学研究所所長の山極壽一さんが「進化と文明のミスマッチから見たコロナ後の社会」と題して講演しました。

山極さんは、地球に存在する微生物やウイルスと新型コロナのパンデミックとの関係について、「野生動物には多くのウイルスの遺伝子が組み込まれており、人間の活動や気候変動による生態系の破壊によって、未知のウイルスが野生動物を介して家畜や人間に感染するようになってきた」と述べました。

現代社会は人々が密集して大集団をつくり、人や物が地球的規模の動きを強めるという特徴があると指摘し、この特徴に乗じて新型コロナのパンデミックが起き、私たちはさまざまな制約を受けることになったと話しました。同時に、コロナ禍の教訓として、子育てや家事、介護の重要性やサービス産業の価値などに人々が気付き始めているとし、「人間にとっての豊かさとはなにかを考え直さないといけない時代になっている」と述べました。

野生ゴリラなどの研究の第一人者の山極さんは、サルとゴリラ、チンパンジーの生態や行動などと比べながら、人類が進化してきた歴史や人間の子育ての特質、人類史の中で人間の脳が大きくなってきた経過、子育ての特徴などに触れ、「動物は自分の利益を高めるために集団に属するが、人間は自分の利益をおとしめても集団のために尽くそうとする」と語りました。

山極さんは3年に及ぶコロナ禍を通じて、命と命のつながりを見据えて、新しい人間の暮らしとは何かを考えることが重要だと強調しました。食べ物を分配し、仲間といっしょに食べる「共食」と、親だけではなく様々な人が子育てに関わる「共同保育」を通じて高められた「共感力」こそ、人間の本質だと述べました。

第22回 全国障害児学級＆学校 学習交流集会in京都

感想ダイジェスト その1

楽しい2日間でした。大阪の仲間がたくさん集まり、いろいろ語り合えた時間が最高でした。分科会などに出て感じたことは、「やはり全国はレベルが高いなあ」と再認識させられたことです。「まだまだやなあ」と思いました。あまり大きなことは言えませんが。これからも少しずつでも前進していけたらいいなと思います。来年の愛知は行けるかな。いろいろと準備していただいたみなさん。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。（四條畷校分会　鈴木浩司）